マイナンバー
保険証導入

くがはらウィメンズクリニック 院長 **永田英明**
東京都大田区久が原5-11-11 Adachi Clinic モール 2F
TEL：03-3751-1111

マイナンバーの保険証利用で受付のスピード向上とミス・トラブルを防止

コロナ禍の2020年に開業した「くがはらウィメンズクリニック」（東京都大田区）。「女性の身体とこころの健康をサポートする」という理念のもと、女性ホルモンに関する専門的医療とともに、かかりつけ医として地域医療に貢献していくという。また、マイナンバーカードの保険証利用をいち早く導入するなど、経営の効率化や生産性向上に意欲的に取り組んでいる。永田英明院長に話をうかがった。

女性の身体とこころの健康をサポート コロナ禍でも開業3か月で黒字化

――貴院は2020年6月に開業された新しいクリニックですね。まず概要を教えてください。

永田　当院は「女性の身体とこころの健康をサポートする」という理念のもとに開業した、産婦人科・女性内科のクリニックです。私の専門領域は女性ホルモン（エストロゲン）のもたらすさまざまな役割や機能における研究で、当院では学童期中高生女子の月経不順、子宮頸がん予防ワクチン、成人女性の子宮がん検診、子宮筋腫、子宮内膜症検査や治療、月経前緊張症、月経困難症、更年期障害、骨粗鬆症、高脂血症、更年期うつ状態などの婦人科診療とともに、女性のためのかかりつけ医としての役割を果たしていきたいと考えています。

また、私は九州大学病院高度先進医療センター、日本医師会治験促進センターおよび製薬企業開発部において新しい医薬品の開発（治験や臨床研究事業）に従事したほか、子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）の開発にも携わりました。そこで当院ではエストロゲン補充やワクチンを中心とした予防医学にも力を入れています。

――コロナ禍でのスタートになり、経営的に厳しかったのではありませんか。

永田　確かにタイミング的には難しい時期ではありましたが、よい物件が見つかったこともあり開業に踏み切りました。

私は曽祖父の代から医師の家系で、祖父や父が宮崎で開業医をしていたことから、同じように開業するなら地域のかかりつけ医になりたいという思いがありました。そしてこれまでの研究や大病院での経験をいかに地域医療に還元できるかを考えています。婦人科の女性ホルモンの専門医は少ないので地域のニーズに応えることができると思っています。

結果論ですが、都心部のビジネスパーソンをターゲットにしていたら、テレワークの普及で厳しかったと思います。ここは住宅街なので、むしろ在宅勤務を機に受診される方が多かったのは幸いでした。落下傘開業なので、文字どおり患者さんはゼロからのスタートでしたが、おかげさまで右肩上がりで増え、3か月で黒字化しました。現在は一般診療に加え、ワクチン接種や検診を含め診療を行っています。スタッフは4人で、看護師は非常勤1人です。患者層としては、12歳以上の中学生から80歳くらいまでと幅広く、疾患も生理不順、生理痛、更年期障害、骨粗鬆症などさまざまです。患者さんは基本的にホームページを見てという

Profile

永田英明（ながた・ひであき）

聖路加国際病院、九州大学病院、医師主導治験厚生省研究員を経て、2020年6月に開業。2001年度北米閉経学会にて「New Investigator Award」受賞。日本産科婦人科学会、日本女性医学会、日本骨粗鬆症学会、北米閉経学会（NAMS）所属。

方と口コミで来院されます。

初診では1時間くらいかけて丁寧に診ています。聖路加国際病院や大学病院などで行っていたのと同じレベルの、質の高い医療を提供したいからです。

医療機関のメリット大きい「マイナ保険証」事務のミスや未収金発生を防止

――貴院はマイナンバーカードを保険証として使う「マイナ保険証」のテスト運用から参加され、実際に導入されています。狙いを教えていただけますか。

永田　1つは患者さんの利便性です。従来、患者さんは保険証、診察券、お薬手帳の3点セットが必要でしたが、マイナ保険証が使える医療機関や薬局であれば、基本的にマイナンバーカード1枚で済みます。通常は受付に保険証と診察券を出しますが、マイナ保険証は「顔認証付きカードリーダー」にマイナンバーカードを置くと、顔認証で本人確認ができます。事前登録をしなくても、カードリーダーを操作することで、数秒でマイナ保険証が登録されます。画面の手順に沿っていけば簡単に登録できます。

登録は1回のみで、一生使えます。月1度の保険証の確認が不要になるほか、結婚や転職による保険証の更新も不要になります。ただし、顔認証の本人確認は毎回必要です。

受付には診療案内のほか、マイナンバー保険証利用の案内も掲示

マイナ保険証には健康保険証、薬の履歴、健康診断などの情報が入っており、医師や薬剤師は見ることができますから、不要な検査が要らなくなり、過剰な薬も減らせ、医療費の削減につながります。患者さんは安心安全な医療が受けられます。

当院では現在、約3割の患者さんがマイナ保険証を利用されています。早期に100%にしたいので、クリニックの玄関や診察室などにポスターを掲示して啓発しています。受付スタッフも時間があるときは、患者さんにひと声添えておすすめするようにしています。

――医療機関にとってのメリットはどこにあるのでしょうか。

永田　医療機関のメリットは大きく3つあると考えています。1つ目は事務のミス防止です。私は当院を開業する前に、宮崎で父の後を継ぐ形でクリニックを経営したほか、複数のクリニックで雇われ院長を経験しましたが、長年苦しんでいたのが、受付業務の細かい作業です。必ずミスが発生します。保険者番号、家

参考：オンライン資格確認等システムの導入状況（1月23日時点）　※括弧内は本格運用開始（10/20）時点との比較

	①顔認証付きカードリーダー申込施設数	②準備完了施設数	③運用開始施設数
全体（229,271施設）	130,039施設	36,014施設	25,043施設
普及率	56.7%（+0.4%）	15.7%（+6.8%）	10.9%（+5.8%）
病院（8,223施設）	6,415施設	2,446施設	1,884施設
普及率	78.0%（+0.5%）	29.7%（+10.0%）	22.9%（+10.1%）
医科診療所（89,456施設）	39,743施設	10,418施設	7,035施設
普及率	44.4%（+0.4%）	11.6%（+4.8%）	7.9%（+4.3%）
歯科診療所（70,757施設）	34,614施設	7,884施設	5,977施設
普及率	48.9%（+0.3%）	11.1%（+4.5%）	8.4%（+4.4%）
薬局（60,835施設）	49,267施設	15,266施設	10,147施設
普及率	81.0%（+0.3%）	25.1%（+11.9%）	16.7%（+9.2%）

出典：厚生労働省第150回社会保障審議会医療保険部会「オンライン資格確認等システムについて」（2022年1月27日）をもとに編集部作成

族の名前、生年月日、男女の性別、日付などの入力ミスがあると、診療報酬請求を出しても、社会保険の場合は社会保険診療報酬支払基金から返戻され、再提出しなければなりません。

受付スタッフは一生懸命やってくれていますが、ヒューマンエラーなのでゼロにするのは難しい。そうすると注意しなければなりませんので、お互いにイヤな気持ちになります。マイナンバーカードならば、自動的に電子カルテに情報が入りますので、基本的にミスがなくなります。

2つ目のメリットは、チェックインのスピーディーさです。当院は患者数がそれほど多くないのでさほどでもないですが、総合病院などは風邪の時期などは内科や耳鼻科は何百人にもなります。患者数が多い医療機関、診療科ほど受付スピードが早くなるメリットがあります。

3つ目のメリットは、保険証の不正利用の防止です。これも長年、悩まされてきました。たとえば社保の保険証の場合、退職などで保険証が切れているのに、本人がそれに気づかずに受診することがあります。そうすると診療報酬を請求しても、報酬が支払われず、全額、医療機関の負担になります。

マイナンバーカードならば、受付で保険証が切れていることがわかります。その上でどうしても医療を受けたいということであれば、全額自己負担になるという説明ができます。

悪質なケースとしては、本人が保険証が切れているのを知っていて、ウソをついて受診する例が少なくありません。その結果回収ができず未収金となってしまい、泣き寝入りしているクリニックや病院は全国に相当数あります。

受付にあるマイナンバーカードリーダー

――患者さんに支払わせることはできないのですか。

永田　現実的に難しいです。電話番号が変わっていたり、会社に連絡しても辞めているのでわからない。仮に電話連絡がついても、支払いに応じることはまずありません。そもそもそれだけの労力を医療機関はかけられない。大病院ほどそういう未収金の額は大きく、病院が赤字になる原因の1つになっています。マイナンバーカードはその救世主になると考えています。

システムの有料化で導入促進を医療機関への啓発活動が大事

――マイナンバーカードの普及率は国民の約４割にとどまっています。個人情報の一元管理に抵抗を感じる人が少なくないようです。

永田　銀行口座が紐づけられるとか、いろいろな不安があるようで、悪いイメージがあります。普及にはまだ時間がかかりそうです。

――医療機関での導入は進むでしょうか。マイナ保険証を使える医療機関は１割程度（約２万５千施設）です。厚生労働省は2023年３月末までに全医療機関で使えるようにしたい方針のようですが。

永田　医療機関への導入を促進するためには有料化したほうがいいと思います。いまは無料でシステムを導入できます。先ほど述べたようなメリット、特に未収金の発生を未然に防ぐことができる点は非常に大きな経営的メリットです。そこをもっと積極的にうたうべきです。

そのためには民間企業などを活用して、たとえば100万円でシステムを販売するのです。企業はビジネスなので営業に力を入れます。たとえば、年間の未収金が500万円ある医療機関ならば、100万円の投資で、初年度に400万円の収入増になります。次年度からは毎年500万円のプラスです。大きい病院ほどメリットがあります。このメリットを医療経営者の多くは理解していないので、もっと啓発活動をすべきだと思います。

――逆にデメリットはありますか。

永田　特にはないですが、強いてあげるならばシステムの不具合が起きる可能性です。医療機関によって使っているコンピュータや各種システムのメーカーが違います。顔認証付きカードリーダーはパナソニック

事務スタッフから見たマイナ保険証導入

受付スタッフ　**前田知美**さん

マイナ保険証により仕事の負担が軽減し、効率化しました。紙の保険証では、手で入力したものをオンライン確認しますが、マイナ保険証は患者さんが「顔認証付きカードリーダー」で顔認証をしたあと、そのデータとシステム内のデータを目視で照合します。紙の保険証のチェックに比べ断然早いです。

トラブル防止も大きなメリットです。たとえば社保の保険証の場合は企業側のミスや処理の遅れで、保険証と内容が違い、エラーが発生することがあります。そうすると確認作業が必要になります。また、仮に患者さん本人が退職後に、切れた保険証を持って来られても、こちらでは調べきれません。ご本人の言葉を信じるしかなく、結果的にレセプト請求に不備や誤りがあるとして返戻されたり、未収金が発生したりします。マイナ保険証ではそうしたトラブルが防げます。

もう1つの利点として、保険証の返し忘れがない点があげられます。保険証の確認の際にスキャンをしてすぐにお返ししますが、患者さんが多く忙しい時は、会計時に一緒にお返しすることがあります。その際に返し忘れることがあるのです。マイナ保険証は患者さんがすべて手続きを行うので、そうしたトラブルが起きないのは大きなメリットだと感じています。

製なので、うまく連動しないことがあるかもしれません。当院も最初の頃に少し不具合がありましたが、ハード面の問題なので改善できました。

導入では受付スタッフの理解がポイント
マイナ保険証は毎回の確認が必要

――マイナ保険証の導入を検討している医療機関へアドバイスをいただけますか。

永田　受付スタッフの理解を得ることが一番のポイントだと思います。新しいことには抵抗がありますから。受付スタッフからすると、マイナンバーカードを毎回チェックしなければなりません。従来の保険証は月1回のチェックですが、マイナ保険証は診察のたびに確認する必要があります。

クリニック入口にもマイナンバー保険証利用のポスターを掲示している

マイナ保険証の確認が必要なのは、名前の表記が違う場合などがあるからです。特に外国人では、マイナンバーカードは英語表記になっていますが、保険証や支払基金はカタカナ表記になっています。たとえばTOMさんの場合、「トム」とカタカナで書かなければ支払基金から支払われないのですが、マイナンバーカードを通すと、TOMと出る。その確認が必要になるというわけです。

――これからの地域での役割、展望をお聞かせください。

永田　この地域で婦人科の女性ホルモンの専門医は私だけですので、専門性を生かして地域医療に貢献していきたいと考えています。

また、かかりつけ医として地域の方々にとって使い勝手のよいクリニックにしたいので、新型コロナウイルスのワクチン接種やPCR検査などにも積極的に対応するため、いまクリニックが入居しているビル2階の下の1階を専用スペースとして新たに借りました。

私の祖父や父がそうであったように、規模を拡大する考えはなく、かかりつけ医として地域医療に粛々と取り組んでいくつもりです。

（2022年1月17日／ライター 田之上 信）